第 21 回　CAOS21 の会　ご報告

第 21 回 CAOS の会参加印象記

安藤眼科医院
院長　安藤　浩

楽しい会をありがとうございます

今回は緑内障シリーズとなるＣＡＯＳの会のお誘いをいただきました。見るからに魅力的なプログラムでしたので、私はもちろん全参加させていただき、安藤眼科医院からも途中参加ですが江口亮と高木智恵子を参加させていただきました。そして、安藤眼科医院でも緑内障手術をある程度手掛けておりますので、今回の会はとても参考になり、勉強させいただきました。ご講演をいただいた先生方、御一緒させていただいたＣＡＯＳの会参加者の先生方、たいへんありがとうございました。また来年の夏に何を見られるのか、とても楽しみに思っております。来年の話をする前に、まずは、今回の印象記を書いてくれとの細川社長からの御依頼がありましたので、僭越ながら、印象記をお届けいたします

８月４日（福島アイクリニック）

第一日目は、桑山泰明先生（福島アイクリニック）の手術を見せていただいきました。福島アイクリニックは、大阪駅から大阪環状線で１駅、福島駅前の阪神ホテルと同建物内の４Ｆにあり、シックな内装の眼科でした。

小さく深く専門化されたマーケットを他の追随できないやりかたで対象とするマーケティング戦略をニッチ戦略と言います。ひとたび軌道に乗った際には、最も安全確実な戦略の一つとされますが、ニッチ戦略には「市場とのアクセス」という重大かつ解決困難なボトルネックがあります（Philip Kotler, Kevin Lane Keller “Marketing Management 13thedition”, 2008）。

福島アイクリニックは「緑内障専門」を標榜されており、典型的なニッチ戦略をとっています。医療の中ではマイナー科とされる眼科で、しかも緑内障というごく限られた疾患のみを対象としているわけです。他のニッチ戦略と同様に、ボトルネックとなるのはアクセスです。

つまり、マーケット（緑内障患者）が商品提供者（福島アイクリニック）を発見、通院できるかどうかで、これは本来とても大きな懸念事項になります。しかし、福島アイクリニックは、その問題点を、緑内障を手掛ける眼科医師ならば必ず知っている「桑山先生」という看板により見事に解決され、さらに、大阪環状線駅前、大手ホテル同ビルとうい立地条件という、鉄壁の仕上げまで手に入れていました。桑山先生にしかできない、そして桑山先生ならばできる、鮮やかな眼科医院の経営方式に脱帽させていただきました。

さて、眼科手術医本論に戻らせていただきます。「うちで手術をするのが最後の砦だ。ここで手術しなければどこもできない」とおっしゃる桑山先生の言葉通り、桑山先生の、ダブルフラップから後極方向に意図的に前房水を漏出させるトラベクレクトミー手術は、すべてが理論に裏打ちされており、明快かつ鮮やかでした。

切開位置、創孔形状、糸の配置、手術効果の術中確認等、目の前で行われる手技すべてに根拠があるので、戦車が進んでいくように、重量感、迫力、スピードに乗った手術が行われます。

そして、この迫力を生で感じ取れることこそが、ＣＡＯＳの会の魅力です。第一フラップ切開に入る瞬間の１６分休符の間（ま）がシンコペーションを作り、桑山先生の手術に対するリズムを感じ取れます。

ライブハウスでだけ聴ける、ヴォーカリストの息継ぎの音、あるいは、クラシックコンサートの会場でだけ聴ける、ヴァイオリンの弦のウネリの音、とでもいうのでしょうか。術者が一瞬息継ぎをするところ、スピードアップしたところなどを感じ取れるために、自分の通常の手術との違いや同一点を考えられます。

そして、ライブを堪能しようとするＣＡOS21 の会参加者の気迫たるやすさまじく、桑山先生をして「疲れた」「緊張した」と言わしめるほどでした。

眼科内に設けられたモニター前から、症例検討の会場まで、手術手技、理論はもちろんのこと、手術ドレープからナイフメーカーに至るまでの細かな、そして大胆な質疑が飛び交ったのでした。

また、大阪厚生年金病院の時代から桑山先生と長く一緒だったという、副院長の狩野廉先生が、ＣＡＯＳの会参加者のあふれだす質問を、非常にわかりやすく詳細な説明とともに解決してくださいました。

懇親会は同ホテルでのおいしいフレンチでした。テーブルが大きくてテーブル向かいの先生とお話するには大きな声を出すことになりました。

しかし、これがまた楽しく、「アルコールが入ってエンジンのかかってきた」という大橋先生の弁舌を聞いたり、日常の桑山先生のお姿を根掘り葉掘り狩野先生から伺ったり、また、桑山先生の当たり前にこなす神業に夢見心地になっているのを、杉浦先生が「簡単に見えたでしょ、あれは桑山先生がやっているから簡単に見えるのだよ。」といさめる場面があったりと、本音かつ重要な、そしてウィットに富んだ、手術好きのＣＡＯＳの会ならではの楽しい食事を得られたのでした。

８月５日（千原眼科）

２日目は、千原先生の千原眼科を見学させていただきました。「鬼手佛心」。千原先生が最初にお話された、緑内障手術の適応についての言葉がとても印象深く残ります。手術適応のあるときには鬼の手でズバッと切り、しかし、心には仏を宿し、手術後のケアは、できる限り切らずに済むように備える、とおっしゃられていました。

手術を見せていただき、まずは「鬼手」であることが鮮明でした。見せていただいた手術は Deep Sclerectomy を中心としたものでした。

Ｕ字形の、有名な強膜弁の作成から始まり、あっという間の 2nd フラップ作成、当たり前のように表在化しているシュレム管、毛様体後腔への開窓と、流れるような手術は、まさに鬼の手でした。

見せていただいた手術にはチン糸帯脆弱で明らかに難症例であるものが含まれ、控室でモニターを見させていただいているＣＡＯＳ会一同「どっしぇー、やばいじゃないか」的雰囲気が流れたのですが、実際に手術が進行していくと、この症例も難なくこなされ、千原先生の安定した手術を我々は堪能できたのでした。

手術室内では千原先生が、要所ごとに静かな声で手術の解説をしてくださり、手術に臨む術者の責任感をあらためて感じさせていただきました。

ところで、ＣＡＯＳの会が終わった後、この印象記を書きながらの週に、私も千原先生の毛様体上腔への交通路作成を試みてみました。

千原先生があっさり作られていた毛様体後腔への開窓を時間（実時間について今回はノー

コメント。）をかけて作った結果、好成績を得ています。
そのまま技術を転用できるところがライブ手術見学のすばらしさで、学会スライド動画との違いをここでも生かさせていただきました。
今回学んだ技術を使って、私も「佛心」を得られればうれしいのですが、長い道のりになりそうです。

千原眼科は、近鉄京都線伊勢田駅から歩いて１分以内に三部構成のそれぞれ独立した建物で成り立っていました。駅前に面した眼鏡店、開院当初の建物が現在はレーシックセンターになっており、道を挟んで現在の本院があります。この３建物の組み合わせが、次々と発展していく千原眼科の姿を現しているようでした。今回見せていただいた症例の中にはＮ県立医大からの紹介症例も含まれ、千原先生の圧倒的な学術と医術の高さを、あらためて認識させていただいたのでした。

症例検討会では、インプラント緑内障手術の将来性について話が及び、アメリカでの手術症例数の現状で、インプラント推進派病院のため追い風参考ながら、千原先生の訪問された病院で半数がインプラントであったとの衝撃的なお話に一同驚いたのでした。また、これから日本国内に入ってくるはずのインプラント製品の予告のお話もしていただき、その医学としての将来性と、開業手術医ならではの経済性にまで、忌憚のない質疑応答が行われたのでした。

８月６日（講演会）

３日目は、北浜法律事務所の井垣太介先生による、Ｍ＆Ａを中心としたお話を伺いました。医療経営の法律的条件から始まり、貸借対照表や損益計算書、キャッシュフローを用いた企業価値の量り方、さらに、量り取った企業価値の妥当性判断を含むＭ＆Ａ契約書面等における注意点まで、さまざまなお話を伺うことができました。

医療法人を含め、企業、法人たるもの、企業体としての寿命が時代を超える、いわゆる「百年企業」を目指すのは夢の一つです。一定の企業風土を維持しながら、次の時代にも必要とされる医療法人を目指すために、形態、規模を変化させながらのＭ＆Ａは、これからの時代に必要とされる技術だろうと、考えさせられました。コンタクトレンズ眼科を個人経営なさっている先生ならば、院長先生の御意志や御事情で、経営形態を変化や縮小をされても、す

ぐに近隣同業者の先生方がその穴を埋めてくださることでしょう。しかし、ＣＡＯＳの会の手術をなさる先生方が、眼科の形態を拡大や縮小される場合、地域医療に及ぼす影響は大きいと予測され、その影響を最小限にするためには、Ｍ＆Ａが一手段となりそうに思います。

中でも、既にＭ＆Ａ当人または対象となるレベルの医療機関をお持ちの先生の視線は、講演中、質疑応答ともに、とても熱い光を帯びているように感じられました。それらの先生方も、もちろん企業秘密のためにクールな形を装っておられるのですが、たちこめるオーラは、尋常ならざる色を放っておいででした。先生方、頑張ってください。一方、M&A される/するどちらに対しても、中途半端でやりにくい大きさの安藤眼科医院（私）は、極めて気楽に、面白い話を楽しませていただき、好奇心に赴くままの質問をさせていただきました。ありがとうございました。セクシャルハラスメントの話について、懇親会で「結局、円満な人間関係をあらかじめ作っておくことが大切」とのことで、その通りだと合点いたしました。さらに突っ込んだ危ない質問をしたがっている先生方もいらっしゃったように思います。（←気のせいでしょうか。）ＣＡＯＳの会参加者の先生方は男性女性ともに、皆様魅力的な先生方なのですから、危ない遊びは外製しましょう、と私は心の中で思ったのでした。

午後は、検討会、講演会を行い、高山秀男先生、大橋勉先生の貴重な緑内障手術映像を見せていただき、私の手術報告をさせていただきました。

宮田信之先生の「Laser Scalpel」の映像は本当に素晴らしく、炭酸ガスレーザーの威力をまざまざと見せていただきました。しかし、あまりに素晴らしすぎる映像で、「宮田先生の腕」対「炭酸ガスレーザー」の重要度比率が、１０対１なのか、６対４なのかが分からず、そこが最後の疑問点として私の中に残ったのでした。高田眞智子先生の「超広角操作レーザー検眼鏡」は、キャンペーンガール TAKADA の独壇場と化し、高田先生のセクシーなお声と、

緑に光る網膜剥離映像が、脳裏に焼き付いて終了したのでした。

市川一夫先生の「Trabectome の理論と手技」は、新しい緑内障手術として、今後の発展の期待されるものでした。術者負担がＧＳＬの技術で、患者メリットが繊維柱帯切開術とほぼ同等の Trabectome は、これからの緑内障手術の適応範囲が圧倒的に広げると考えられ、点眼液と手術の境界線を変えられる力を持った治療方法と考えられました。

猛暑

今回も激暑い中を、ＣＡＯＳの会が行われ、ヒートアイランド大阪と、油照り京都を堪能させていただきました。移動も暑ければ、手術見学も熱い。ついでに聞いた細川社長のビジネスの話も熱いものでした。

さて、ＣＡＯＳの会が終わって、私の住む神奈川県茅ケ崎に戻ってきました。歩いて５分の夏の湘南の砂浜もいろいろな意味で熱いです。やれやれ、ついでのことに今度の休暇は、思い切ってインドネシアの熱帯雨林にでも行って遊んでこようか。

私の頭の中は、暑さインフレーションを起こしているようです。